

著者訂正

下記原著論文について、著者から312頁「表2」の一部について訂正の依頼がございましたのでお知らせ致します。

佐々木健太, 佐野剛史, 伊藤万里子, 加野象次郎: 血清CA19-9の測定値方法間差と分子多様性に関する検討, 第一報: 腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患における血清CA19-9のArchitectとLumipulseによる免疫反応性の差異, 臨床化学, **46**: 311-317, 2017.

表2 血清CA19-9の測定に使用した装置と試薬

		アボット ジャパン Architect i2000 (A法)	富士レビオ Lumipulse G1200 (L法)
測定原理		化学発光免疫測定法 (CLIA)	化学発光酵素免疫測定法 (CLEIA)
測定範囲		2.00~1200 U/mL	0.1~500 U/mL
固相反応	担体	磁性微粒子	フェライト粒子
	抗体	NS19-9[IgG]	NS19-9[IgG]
	pH	酸性	中性
	反応時間	18分	10分
標識反応	標識物	アクリジニウム	アルカリホスファターゼ
	抗体	NS19-9[(Fab') ₂]	NS19-9[Fab]
	pH	酸性	中性
	反応時間	4分	10分
検出反応	試薬	トリガー (H ₂ O ₂ +NaOH)	発光基質 (AMPPD)
	反応時間	—	5分
	測定	発光量	発光量

訂正箇所:

7行目 固相反応 反応時間 アボットジャパン: 10分 → **18分**
 9行目 標識反応 抗体 富士レビオ : NS19-9[IgG] → **NS19-9[Fab]**
 11行目 標識反応 反応時間 アボットジャパン: 10分 → **4分**
 13行目 検出反応 反応時間 アボットジャパン: 1分 → **—**